

# 北小植物歳時記

## キョウチクトウ

キョウチクトウが敷地内のあちらこちらで咲き、赤や白い色がよく目立っています。夏を代表するこの木は、強くて育てやすいために、校庭や公園によく植えられます。大気汚染などにも耐え、防音効果も高いらしく、幹線道路の脇によく植えられています。キョウチクトウの葉は裏側に肉眼では見えなくぼみがあり、その内側にはびっしりと毛が生えています。その奥に呼吸するための気孔があります。毛がフィルターの役割をし、気孔から有害物質が入ることを防いでいるようで、大気汚染に耐えるというよりは、有害物質を取り込まない仕組みになっているといったほうが正しいのかもしれません。

インド原産のこの木は、江戸時代に中国経由で入ってきたと言われています。漢字では「夾竹桃」と書き、元々は中国での呼び名です。花がモモ、葉っぱがタケに似ているということでこの名前があります。毒性が強く、キョウチクトウを食べる虫もほとんどいないと言われています。花期が長く、6月頃から咲き始め、この9月頃まで次々と咲いていきます。

私もキョウチクトウのように、息の長い人間になりたいと思っています。もちろん、毒性はありません。

